

エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社

2021年7月(2020年度活動報告)

2004年度(平成16年度)活動報告から連続17事業年度目の報告

CONTENTS 目次

社長メッセージ ～わたしの環境経営理念～	1
1 会社プロフィール	2
◆ 会社概要、沿革、事業概要、許可・資格等	
2 継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です	4
◆ 協働・連携企業紹介と連携体制	
◆ 北勢工場への廃油等廃棄物搬入企業数等の状況	
◆ SDGs「持続可能な開発目標」を学び実践しよう！共に取組みます「ミッションゼロ 2050 みえ」	
3 廃油・汚泥等の再資源化処理プラント「北勢工場」です	6
◆ 北勢工場は第1エリア・第2エリア・阿下喜エリア構成で3エリアを一体運営	
◆ 廃棄物再資源化処理施設整備の歩み	
4 北勢工場搬入廃棄物の再資源化システムと環境貢献評価です	8
◆ 北勢工場搬入廃棄物の99.4%を再資源化	
◆ 太平洋セメント(株)藤原工場との再生処理連携システム	
◆ 安心・安全・確実な再資源化推進拠点・北勢工場試験分析室	
5 廃棄物収集運搬事業部門の再資源化挑戦取組です	12
◆ 再資源化廃棄物の収集運搬目標と実績	
◆ 再資源化廃棄物の収集運搬を支える日常活動	
◆ 事業継続を危うくすることが想定される事態の危機管理取組	
6 北勢工場の環境保全と環境クレームの状況です	14
◆ 北勢工場の環境保全の状況	
◆ 北勢工場への環境クレームの状況	
7 安定・事業継続のための「環境経営」向上取組です	16
◆ 「環境 & 企業経営」、「ワーク & ライフ」を同軸で捉える企業活動を展開	
◆ ISO14001「環境方針」と推進体制	
◆ ISO14001「環境目標」と活動報告	
◆ 安定・事業継続する企業活動のための働き方（ワーク・ライフ・バランス等）を考える	
8 環境マネジメントシステムと専門組織の両輪による「安全・環境保全」取組です	19
◆ 環境マネジメントシステム活用の教育・訓練等	
◆ 会社専門組織での「安全・環境保全」取組	
9 社会貢献活動の取組状況です	21
10 環境コミュニケーションを大切に考えます	22
11 第三者コメント	24
その他	25
◆ 会社（統括本部・北勢工場）への案内図、いなべ市観光マップ	

報告に当たっての基本的要件

- 対象組織** 会社組織全体を対象として記載。この他、中核事業である廃棄物の再資源化に協働・連携する企業間の関係についても記載。
- 対象期間** 報告対象期間は、2020年4月～2021年3月(直近事業年度)を基本とし記載。この他、事業経過、事業実績、今後の計画等についても積極的に記載。次回の報告(第18版)は、2022年7月を予定。
- 対象分野** 報告の基軸は環境的側面について記載。この他、社会貢献、労働安全衛生、ワーク・ライフ・バランス、SDGs等、企業活動に求められる社会的分野についても記載。事業の性格上「安全」と「環境経営」を一体として捉えることが適切であることから「安全・環境経営レポート」として作成。

わたしの環境経営理念

社長メッセージ

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)は、廃棄物の安心・安全・確実な処理を基本として、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる廃棄物の再資源化に取り組むとともに、自らの環境活動についても継続的に改善する企業活動を展開してまいりました。こうした地道な継続的取組みに対して、平成20年に「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」を、平成24年5月には、第10回日本環境経営大賞「環境経営パール大賞」を賜りました。

社長就任以来、受賞に至った「環境経営理念」のもと、廃棄物の再資源化への挑戦と受賞に恥じない企業活動にひたすら取り組んでまいりました。わたし達の「環境経営理念」は、環境と企業経営を対立する軸でなく、同軸で捉えるものです。

また、ますます進展する少子高齢化がもたらす厳しい人材確保には、社会に支持される「ワーク・ライフ・バランス」の定着が不可欠と考えています。小規模企業にとって、導入・定着が困難な「ワーク・ライフ・バランス」ですが、今後、環境経営理念と同様に、「ワーク・ライフ」を対立する軸ではなく同軸で捉え、社員一人ひとりの充実したワーク・ライフ・バランスの好循環が、安定・継続する企業活動を創造する。』との二つの同軸理念のもと企業活動を展開します。

こうした企業活動を「持続可能な開発目標(SDGs)」にあてはめ開示することを通じ、2030年の自社の姿を考えた環境経営への取組をスタートさせましたが、この度の新型コロナウイルスの感染対策を講じる中で、一層の推進を認識・決意いたしました。

なお、「環境経営理念」を明確に定め、この理念の具現化に向け、「環境経営行動指針」及び「環境経営重点推進事項」を明示します。



伊藤 祐介

環境経営理念

わたしたちが目指す廃棄物の再資源化事業においては、何よりも、地域社会や顧客の信頼を得ることが大切です。「環境と企業経営は対立する軸でなく、同軸でとらえる環境経営の推進こそが、地域社会や顧客の信頼を得られ、企業活動が進展する。」との理念で企業活動を展開します。

環境経営行動指針

- 1 「廃棄物は大切な資源」であることを、全部門・全従業員で共有し、行動する。
- 2 安定・継続する廃棄物再資源化の推進に向けて行動する。
- 3 地域社会や顧客に信頼され、自らの環境活動を改善する企業として行動する。

環境経営重点推進事項

- ① 再資源化処理困難廃棄物の処理範囲を拡充する。
- ② 安定・継続する廃棄物再資源化の関連企業間協働・連携体制を一層推進する。
- ③ 産業廃棄物中間処理工場のイメージを転換する環境管理を徹底する。
* 整理・整頓され、第一印象から安心・安全が感じられるきれいな工場管理
- ④ ISO14001 認証を継続更新する。
* 全部門・全従業員の参画を重視した安全・環境活動を計画し、実施
- ⑤ 環境報告書(名称:安全・環境経営レポート)を毎年発行する。
* 地域の方々に理解され、全従業員の環境経営行動の指針になる分かり易い親しみのもてる報告書



環境大臣表彰



日本環境経営大賞
「環境経営パール大賞」

1 会社プロフィール

会社概要

社名 エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社
 代表者 代表取締役社長 伊藤祐介
 所在地 統括本部 〒510-0814 三重県四日市市清水町4番45号
 北勢工場 〒511-0417 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地
 (TEL、FAX、URL、E-mail、会社位置案内図は25ページ)

設立 平成12年(西暦2000年)3月1日
 新日本技研(株)から環境事業部門を分社(通算事業実績46年超)

事業規模 資本金 3,000万円
 設立直前年度と最近5カ年度の決算状況(決算:毎年4月1日~翌年3月31日)

区分	決算	2001年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
社員数(人)		30	60	61	63	63	65
売上高(百万円)		765	1,422	1,452	1,527	1,893	2,001
自己資本比率		26.7%	61.3%	60.0%	66.6%	65.1%	67.3%
流動比率		148.1%	171.8%	159.7%	184.4%	198.9%	282.7%

組織
 社長 — 統括本部 — 総務部 営業・運輸部
 — 北勢工場 — 藤原出張所
 — 安全管理室

沿革

昭和 48年 3月 新日本技研株式会社設立
 (西暦1973年)
 50年 2月 産業廃棄物処理事業部門設置
 56年 10月 小野田セメント株式会社
 (現:太平洋セメント(株)藤原工場内で
 産業廃棄物再資源化処理を事業化)
 61年 3月 (財)クリーン・ジャパン・センター
 会長賞受賞(再資源化貢献)
 平成 7年 12月 北勢工場新設



平成 12年 3月 エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社設立(新日本技研(株)から分社)
 (西暦2000年)
 代表取締役社長 生川好彦 就任
 6月 営業開始
 15年 5月 北勢工場(第2エリア)に中間処理施設(混練)を増設
 19年 7月 北勢工場事務所棟新築
 20年 10月 環境大臣表彰受賞
 (平成20年循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰)
 21年 3月 北勢工場(第2エリア)内に危険物第4類第1石油類となる
 エマルジョン燃料製造施設を整備
 23年 4月 北勢工場(第1エリア)の粉体廃棄物再資源化設備を充実整備
 23年 8月 北勢工場 計量証明事業登録(濃度)
 24年 5月 第10回日本環境経営大賞「環境経営パール大賞」受賞
 26年 6月 ガスクロマトグラフ質量分析装置導入等に伴い
 北勢工場試験分析室を場内移転拡充整備
 27年 2月 北勢工場(阿下喜エリア)に混練施設を増設し、
 難処理汚泥等の再資源化設備を整備
 4月 代表取締役社長 伊藤祐介 就任
 令和 2年 7月 新社屋へ移転(旧社屋 同一敷地内)
 (西暦2020年)

事業概要

■産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の中間(再資源化)処理

企業活動から発生する廃油・廃酸・廃アルカリ等下記の廃棄物について、三重県知事の許可を得て、セメント製造時の補助燃料等の製品規格に適合させる安全に配慮した化学的・物理的特性に応じた処理を行い、セメント工場での補助燃料等として供給。

- ◆産業廃棄物:汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類(石綿含有産廃除く)・ばいじん
- ◆特別管理産業廃棄物:特定有害廃油(燃料化できる1,4-ジオキサン含有物に限る)・引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ



■産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬

企業活動から発生する下記廃棄物(各自治体で異なります。)について、三重県知事等の許可を得て、セメント原燃料として供給する等の再資源化に向けての取組みを強化しながら、安全・適正に収集運搬。

- ◆産業廃棄物:燃え殻・廃酸・廃アルカリ・木くず・動植物性残さ・金属くず・ガラスくず等・鋳さい・がれき類・汚泥・廃プラスチック類・廃油・ばいじん
 (以上、三重県知事許可分)
- ◆特別管理産業廃棄物:引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ・特定有害廃油(一部)・特定有害汚泥(一部)・特定有害廃酸(1,4-ジオキサン)・特定有害廃アルカリ(1,4-ジオキサン)
 (以上、三重県知事許可分)

※ 三重県の他、神奈川県・福井県・岐阜県・愛知県・滋賀県・大阪府・岡山県・福山市について許可取得

優良認定について

平成29年5月22日期限の産業廃棄物処理事業の許可更新にあたり、優良認定業者とされる5つの基準(①実績と遵法性②事業の透明性③環境配慮の取組④電子マネIFEST⑤財務体質の健全性)のうち、②事業の透明性の要件の一つ「事業変更に伴う許可証写のすみやかな公表」が満たされていない事務処理ミスがありました。

平成23年7月に取得した優良認定再取得は次の更新時となりますが、この「安全・環境経営レポート(P22)」に記載の環境コミュニケーション対応の通り、実質的には、この基準を超える積極的情報開示を実施していますので、この取組みを継続・充実するとともに、実施態勢も改善して、信頼される企業活動を展開します。

■船舶廃油処理事業

いわゆる船舶洗浄水の処理事業です。四日市港で唯一、船舶を特定せず廃油処理事業を行う事業者です。

許可・資格等

- 産業廃棄物処分業許可(三重県知事)
 特別管理産業廃棄物処分業許可(三重県知事)
- 産業廃棄物収集運搬業許可(三重県知事他)
 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可(三重県知事他)
- 船舶廃油処理事業許可(中部運輸局長)

- ◆三重県産業廃棄物税条例の認定「再生施設」(北勢工場) …… P 6 参照
- ◆危険物製造所設置許可(桑名市長) …… P 7 参照
- ◆計量証明事業登録(北勢工場:濃度) …… P 11 参照
- ◆ISO14001 認証取得 …… P 16 参照

- *一般貨物自動車運送事業
- *第一種利用運送事業許可(中部運輸局長)
- *毒物劇物一般販売業登録業者

2 継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です



挑戦します！
「廃棄物は大切な資源」



持続可能な社会経済活動が求められる今日、廃棄物の再資源化への挑戦を通じまして、排出事業者様が行う持続可能な社会づくり取組のパートナーでありたいと願っています。

創業以来、太平洋セメント(株)藤原工場様とは、様々に協働・連携させていただき「廃棄物は大切な資源」に挑戦しています。

廃棄物排出事業者、廃棄物処理業者、資源化製品利用事業者の三者間の営業取引において、一時の利害や自己の利益のみ追求する経営では、安定・継続する資源化への取組は確立されません。

2020年度においても、お取引先 870社の北勢工場への搬入廃棄物について、有益な取組が出来ましたことに感謝するとともに、一層の「廃棄物は大切な資源」に取組みます。

今後とも安定・継続する連携をお願いします。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)
代表取締役社長 伊藤 祐介

循環型社会構築へ



持続可能な地球の未来を拓く先導役として、セメント産業が循環型社会構築への貢献を進めます。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)グループ等とも協働・連携して地域社会への貢献とも調和した事業活動を展開しています。

※平成28年8月、三重県知事様、いなべ市長様、当社社長が参加して、全国に先駆ける内容で、「循環型社会の形成の推進に関する協定書」が締結されました。

これを契機に、三重県所有の「脱塩洗灰設備」が藤原工場に無償譲渡される等、三重県市町の焼却飛灰の安全・安定資源化処理等に繋がっています。

藤原工場製造部長在任中にこの取組に関わった者として、一層の進展に努めます。今後の取組みにおいても、一層の協働・連携をお願いします。

太平洋セメント(株)藤原工場
工場長 川辺 孝治

北勢工場 取扱廃棄物 処理の流れ

太平洋セメント(株)藤原工場



99% 超の再資源化



その他

1% 未満の適正処理

新日本技研(株)

ウイズ・ネット(株)

社会に貢献できる創意工夫の
実行提案が使命です。

既存業種の隙間を埋める
技術と創意が必要です。
隙間には、危険やお客様の
不満が存在します。

石油化学コンビナート内のメンテナンス、定期
修理等で培った安全管理や処理の技術・経験で社
会貢献します。

関連会社

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)
(統括本部)

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)北勢工場への
廃油等廃棄物搬入お取引先 870社
(2020年度受託処理実績分)

化学工業、石油製品製造業、電気機械器具製造業、
情報通信機械器具製造業、繊維工業、鋳業……等
幅広い企業からお取引いただいています。

挑戦します！
「お客様の困ったを解決」



廃棄物は、安心・安全・確実な処理とともに、環境保全や資源保護に貢献する処理が地域社会や排出事業者様からの要請です。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)は、期待される廃棄物処理を目指し、新日本技研(株)の環境事業部門を分社し設立されました。

一層の連携を図り、目的達成のための企業活動を展開します。

新日本技研(株)

代表取締役社長 伊藤 潔

船舶廃油処理事業

上野マリタイム・ジャパン(株)

日本トランスシティ(株)

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)

三社が連携し、四日市港に入港する船舶の船舶洗浄水処理事業を行うことについて中部運輸局長の許可を得、体制が整いました。これまで、わざわざ関東や関西地区に運搬し処理せざるを得ませんでしたが、入港船舶の利便と海洋の環境保全に取組みます。

SDGs (エスディージーズ) 「持続可能な開発目標」を学び実践しよう!

Sustainable Development Goals の略称です。

- 社会が抱える問題を解決し、世界全体で 2030 年を目指して明るい未来を作るための 17 のゴール (P23 参照) と 169 のターゲットで構成。(2015 年国連全会一致採択の国際目標)
- 根幹にある「持続可能な開発」とは、「将来世代のニーズを損なわずに、現代世代のニーズを満たす開発」をいいます。あらゆる分野における社会の課題と長期的な視点でのニーズが詰まっています。
- 持続可能な会社にするためには、今の社会のニーズだけでなく、将来のニーズも満たすような事業展開が必要です。私たちは、自らの取組みに関連する SDGs をあてはめて開示することを通じ、2030 年の自社の姿を考えた環境経営に取組みます。

ミッションゼロ 2050 みえ
～脱炭素社会の実現を目指して～

2019年12月15日
「みえ環境フェア 2019」会場で、
鈴木三重県知事が宣言

『三重県は、2050年までに温室効果
ガス排出量実質ゼロを目指します』

☆わたし達も共に取組みます!

3 廃油・汚泥等の再資源化処理プラント「北勢工場」です

北勢工場は 第1エリア・第2エリア・阿下喜エリア 構成で3エリアを一体運営

第1エリア・第2エリアは廃油等の補助燃料等への再資源化処理を行うエリアです

産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）の処分業許可（中間処理）施設

産業廃棄物の廃油、廃酸、廃アルカリ等をセメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）する施設

危険物製造所としての許可施設 [第2エリア内]（消防法）

危険物第4類第1石油類となるエマルジョン燃料の製造施設

船舶廃油処理事業許可施設

（海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律）

四日市港での船舶廃油処理事業許可施設

産業廃棄物の中間処理施設			
会社名	エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社 許可番号 第02421069799号 産業廃棄物 許可番号 第02471069799号 特別管理産業廃棄物		
施設名	混練（第1エリア）	混練（第2エリア）	中和
産業廃棄物の種類	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類（石油系有機溶剤を除く）、ばいじん、引火性廃油、特定有害廃油（1,4-ジオキサン）	引火性廃油、廃酸・廃アルカリ、特定有害廃油（1,4-ジオキサン）	廃酸・廃アルカリ、腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ
処理能力	252.0t/日	252.0t/日	48t/日
管理者名	エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社 北勢工場 工場長 浜田 直俊 いなべ市北勢町瀬木松之下633番地 TEL 0594-72-7850		

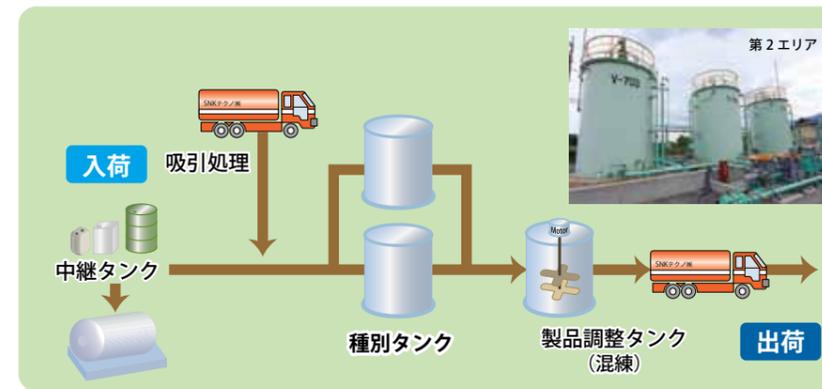
阿下喜エリアは汚泥等のセメント原料等への再資源化処理を行うエリアです

産業廃棄物の中間処理施設	
会社名	エス・エヌ・ケー・テクノ(株) 許可番号 第02421069799号 産業廃棄物
施設名	混練（阿下喜エリア）
廃棄物の種類	汚泥、廃油、廃プラスチック、ばいじん
処理能力	64t/日
管理者	エス・エヌ・ケー・テクノ(株) 工場長 浜田 直俊 いなべ市北勢町阿下喜字中川原3419番1 TEL(0594)-37-4144



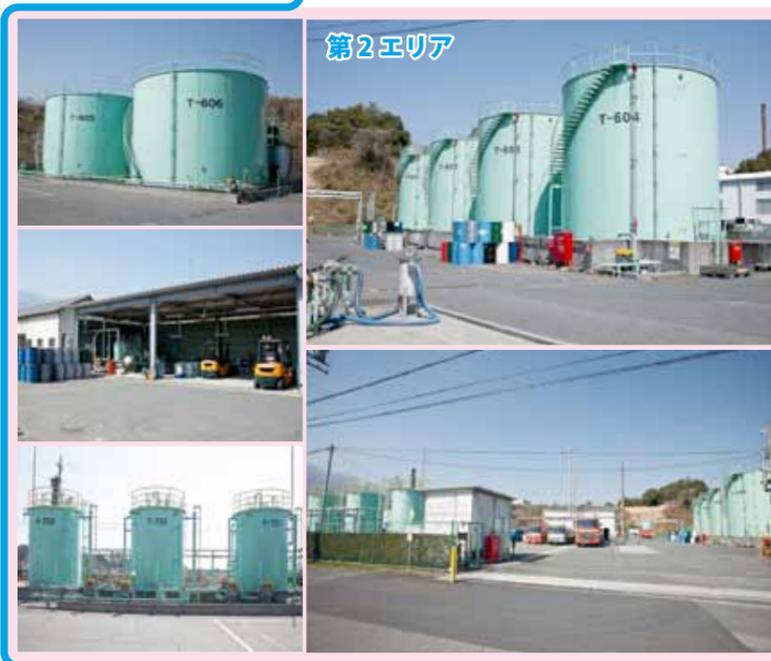
廃棄物再資源化処理施設整備の歩み

- 平成 7年 12月 北勢工場新設（現：第1エリア部分）
- 15年 5月 第2エリア増設（第1エリアに隣接）・・・ 廃油等再資源化強化
- 19年 4月 処理困難物前処理棟設置（令和3年2月撤去）・・・ 難処理物の再資源化挑戦
- 21年 3月 第2エリアに危険物製造所設置・・・ 引火性廃油の再資源化拡充



引火性廃油の安全・安定した再資源化処理を行うため、平成20年11月26日桑名市長の許可を得て、第2エリア内に危険物製造所を設置。

危険物第4類第1・2石油類及びアルコール類の取扱に対応できる設備として、受入、保管及び中間処理（混練）工程により、危険物第4類第1石油類となるエマルジョン燃料の製造施設。平成21年4月から稼働。



自社開発の廃棄物処理プラントです

平成7年12月創業以来培った廃棄物の再資源化技術・経験を生かし、自社開発の廃油等再資源化処理プラント建設（当時は新日本技研株式会社）。社会経済状況の変化に伴う顧客ニーズに対応できる施設設備の改善・工夫を重ね、再資源化処理困難物の再資源化範囲を拡充。

- 23年 4月 第1エリアの粉体廃棄物再資源化設備を充実整備
平成23年4月第1エリアにおける粉塵の飛散や粉塵爆発防止対策等に対する設備を充実整備し、粉体廃棄物の再資源化を推進。
- 27年 2月 阿下喜エリアに難処理汚泥等の再資源化設備を整備
殆どが液状廃棄物処理の現状から、資源利用されていない固形状難処理汚泥等について、北勢工場の再資源化機能を一層拡充。



◆処理困難廃棄物の再資源化取組状況

処理困難廃棄物の再資源化に向けての第一歩は、常に地道な取り組みです。安心・安全・確実な処理のもと、様々な知見を積み重ね再資源化に挑戦します。



その他 三重県産業廃棄物税条例の「再生施設」です

三重県では、産業廃棄物の中間処理施設への搬入に対し、排出事業者に産業廃棄物税が課されますが、この再生施設へ搬入する場合は課税されません。

計量証明事業登録（濃度）事業所です

ISO14001 認証取得工場です

4 北勢工場搬入廃棄物の再資源化システムと環境貢献評価です

北勢工場搬入廃棄物の99.4%を再資源化

2020年度にお取引先870社から処理委託され、北勢工場へ搬入された廃棄物66,194トンにつきましては、セメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）して、65,821トン（99.4%）を再資源化して供給しました。

このうち、搬入廃棄物の性状等から、セメント焼成用補助燃料としての利用実績は46,953トン、セメント製造施設を運転管理する工程で、工業用水の一部代替水としての中和処理水利用実績11,086トン、セメント原料としての利用実績7,782トンです。

処理困難廃棄物の再資源化への積極チャレンジは、一時的に再資源化率を低下させますが、研究・工夫を重ね、その向上に取り組んでいます。



年度別 再資源化実績

年度(平成)	補助燃料等搬入量(利用実績)	北勢工場搬入廃棄物の再資源化率
2020年度	65,821 (トン)	99.4 (%)
2019年度	60,784	99.4
2018年度	51,862	99.5
2017年度	50,385	99.3
2016年度	46,458	99.2
2015年度	42,281	98.9
2014年度	41,123	98.6
2013年度	38,533	98.7
2012年度	32,971	98.0

中間処理に伴う環境負荷と再資源化がもたらす環境評価

❖ 廃棄物の再資源化に挑戦し、社会経済活動で生じる環境負荷を低減 ❖

[2009～2020年度12年間] エネルギー生成量 石炭（一般炭）約28万トン相当
CO2 排出抑制量 約49万トン相当

区分	エネルギー視点評価 (GJ)			CO2 視点評価 (トン)		
	自社中間処理に伴う環境負荷 (A)	再資源化に伴う環境保全(負荷抑制) (B)	環境貢献 (B-A)	自社中間処理に伴う環境負荷 (A)	再資源化に伴う環境保全(負荷抑制) (B)	環境貢献 (B-A)
2020	消費量 約3,144GJ 内訳 電力 295,856kwh 輸送燃料 55.27kl (合計熱量) 3144.11GJ	生成量 約883,500GJ 石炭（一般炭） 約34,300トン 相当の資源保護 効果	880,356	排出量 約1,343トン 内訳 エネルギー消費量分 255.22トン 残渣焼却(他施設分) 1087.76トン	排出抑制量 約61,200トン 搬入廃棄物が資源化されずに全量単純焼却処理された場合のCO2排出量	59,857
2019	3,345	751,700	748,355	1,435	52,000	50,565
2018	2,826	646,290	643,464	1,049	44,700	43,651
2017	2,659	632,200	629,541	1,271	43,800	42,529
2016	2,369	601,600	599,231	1,252	41,600	40,348
2015	2,300	539,200	536,900	1,617	37,300	35,683
2014	2,448	554,500	552,052	1,935	38,400	36,465
2013	2,357	584,900	582,543	1,737	40,500	38,763
2012	2,183	531,800	529,617	2,164	36,800	34,636
2011	2,084	566,269	564,185	1,642	39,200	37,558
2010	2,084	593,555	591,471	1,127	41,100	39,973
2009	1,854	527,487	525,633	842	36,550	35,708
計(12年間)	29,653	7,413,001	7,383,348	17,414	513,150	495,736

※現状のエマルジョン燃料は、石炭（一般炭）CO2 排出量よりも少なく、石炭代替燃料としても排出抑制効果がある。概ね20%程度の排出量の減量が期待できる。

太平洋セメント(株)藤原工場との再生処理連携システム

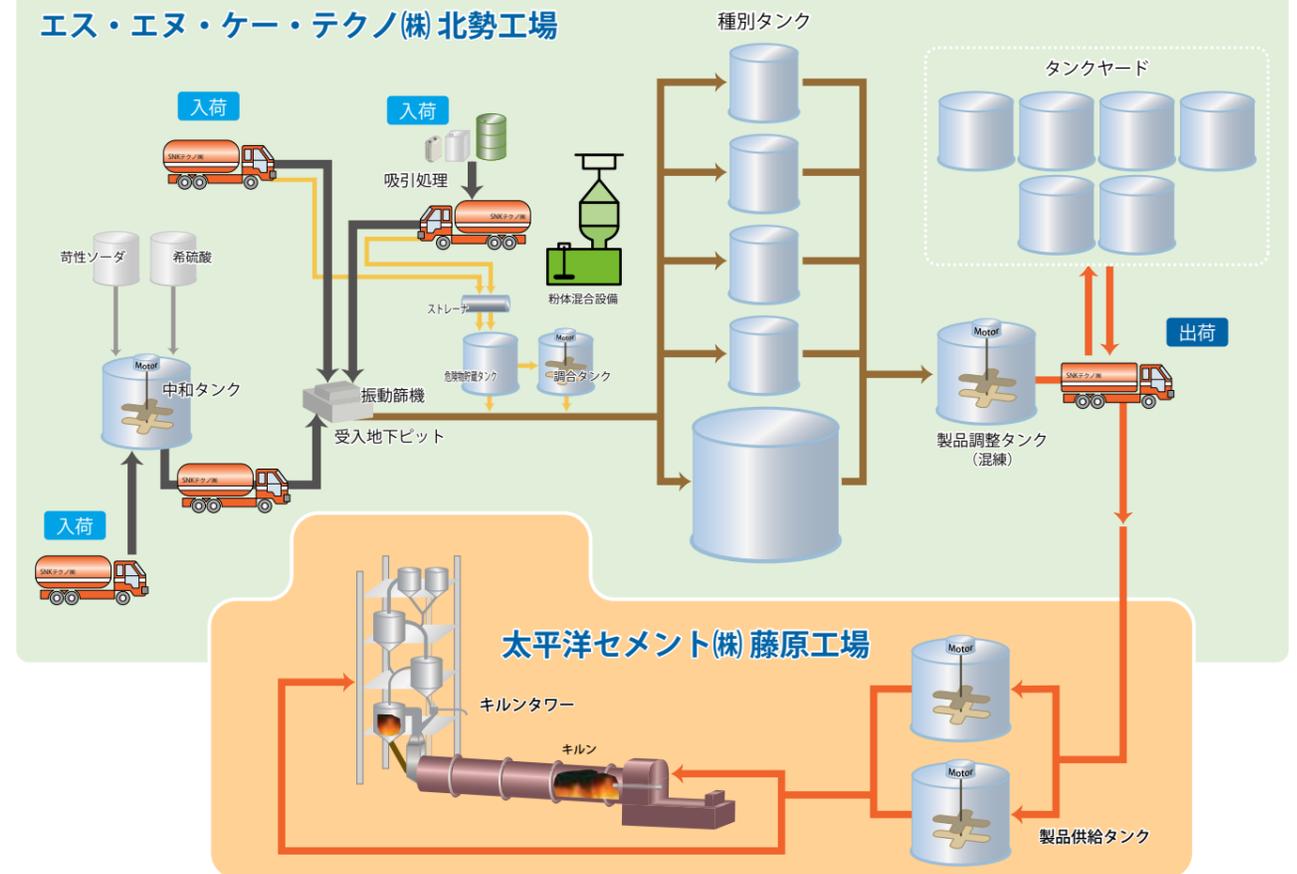
藤原工場と当社北勢工場（第1・2エリア）は直線距離で1.5km、阿下喜エリアはほぼその中間点に位置し、効率的な再生処理連携システムが構築されています。

● 廃油等の補助燃料への再生処理（第1・2エリア中間処理）連携システム

- お客様から集荷した廃油等から異物を除去し、化学的、物理的特性に応じて種別タンクに仕分けして貯蔵
- 製品規格に適合する割合で混合・攪拌するなどして製品化
- セメント焼成工程ロータリーキルン補助燃料として燃焼処理
 - ・高温燃焼（1,450℃）でダイオキシン等有害物質生成は完全抑制
 - ・二次廃棄物の発生無（原燃料は全てセメントに取込まれる）



エス・エヌ・ケー・テクノ(株)北勢工場



● 汚泥等のセメント原燃料への再生処理（阿下喜エリア中間処理）連携システム

- 集荷汚泥等を性状に応じて、建屋内受入施設の原料ピットや原料ヤードに貯蔵
- 製品調整ミキサーで適量混合し、セメント原燃料規格に適合する成分に調整
- セメント焼成工程の原燃料として焼却・焼成処理



平成26年6月ガスクロマトグラフ質量分析装置導入等に伴い試験分析室を場内移転拡充整備



環境計量士 課長 柴原 明
(濃度関係) ISO 事務局長

廃棄物処理において、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応える試験分析室を目指します

- ① 会社各部門間の接着剤及び潤滑油となり最適処理推進
- ② 社会ニーズに応える新規廃棄物処理事業開拓
- ③ 培った知識・データを活用し安全な廃棄物処理を全社教育

ガスクロマトグラフ分析装置操作



自動燃焼-イオンクロマトグラフ分析装置操作



発熱量分析サンプリング作業

❖ 適正処理方法の選択に対する適切な情報提供 ❖

廃棄物の安心・安全・確実な処理を基本として、排出事業者責任はもとより、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる廃棄物の再資源化に取り組みます。

当社との契約前の事前分析、原料受入分析等を必要に応じて行うほか、お客様に「廃棄物データシート (WDS)」の提出をお願いしています。双方の協力が廃棄物の再資源化や適正処理を進めます。

❖ 二次廃棄物を出さないセメント焼成用補助燃料等への利用促進 ❖

セメントの原燃料は全てセメントに取り込まれ、二次廃棄物は出ません。セメントの品質確保を絶対の要件として、責任を持った品質管理を行い再資源化を促進しています。

❖ 企業排出廃棄物の変化に伴う廃棄物の適正処理への研究・工夫 ❖

❖ 再資源化処理困難廃棄物の処理範囲拡大に向けての研究・工夫 ❖

(最近の取組強化事項)

過酸化物等の反応性の高い廃棄物を、事前に水や有機溶剤等で反応しないレベルまで溶解、希釈、攪拌すれば、安全に処理することができることを研究・工夫し把握しました。

すでに数件の処理を実施しており、更に処理困難物の資源化処理に向けて研究、開発を推進します。



研究用攪拌装置

❖ 「環境配慮方針」を定め、再資源化事業における環境負荷を低減 ❖

取組事例1 廃酸・廃アルカリの中和処理について、廃液の事前分析により、できるだけ廃液同士での中和を行い、再資源化原料使用量を削減

※搬入廃棄物に対する中和剤の使用割合 0.128%

取組事例2 油タンク等清掃スラッジは、溶剤系廃棄物で溶解し、製品調合して資源化

取組事例3 搬入廃棄物の一部を、脱臭スクラバーの消臭薬剤として利用

❖ 再資源化に向けての研究 ❖

環境理論や技術で裏打ちされる再資源化処理を研究・工夫し、再資源化処理困難廃棄物の処理範囲を拡充します。

これまでの経験を活かし、既存の理論・技術を新しい観点から

応用・工夫する等の柔軟な発想を持ち、営業担当の提案に耳を傾け北勢工場試験分析室を活用し、関連会社ウィズ・ネット(株)と協働して、チームで着実に推進します。



測定実施項目と内容	測定実施時の環境配慮事項等	
全ハロゲン、硫黄量測定	ハロゲン及び硫黄含有量を燃焼分解後のイオンクロマトグラフ法で測定	従来の機器での酢酸使用がなくなり、悪臭の発生なし。測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
発熱量測定	発熱量を燃焼による水温上昇によって測定	有害燃焼ガスは第一工場脱臭設備で処理
蛍光X線測定	蛍光X線を用いて元素含有量測定 (定量分析で塩素・硫黄・リン・臭素・ヨウ素測定) (FP法分析(半定量分析) ナトリウム〜ウラン測定)	廃液の大きな構成物質の把握が可能となり一層の適正処理に貢献。リサイクル可能な金属の検出も可能
pH測定	試験紙の色の変化により測定またはpHメーターでの水素イオン濃度測定	環境負荷の小さい試験紙を優先使用 (正式、正確な測定はPHメータ使用)
中和量測定	中和剤使用量を中和滴定によって測定	市販の中和剤を極力使用せず廃液(廃酸・廃アルカリ) 同士での中和を積極的に導入
引火点測定	タグ密閉式またはセタ密閉式測定方法で測定	省エネタイプの冷却水循環装置を使用 セタ密閉式の導入により、様々な条件の引火点も測定可能
クロム(VI)測定	六価クロムを指示薬着色による吸光度分析により測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
過酸化物量測定	ヨウ素でん粉反応を利用した滴定で測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
水分量測定	カールフィッシャー水分測定法で測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
ガスクロマトグラフ質量分析/ECD測定	揮発性有機化合物(VOC)や1,4-ジオキサン含有量をガスクロマトグラフ質量分析法ポリ塩化ビフェニル等をガスクロマトグラフ(ECD)にて測定	前処理の抽出にパージ&トラップ濃縮導入装置を使用し、環境基準値以下の濃度でも測定可能で、さらなる一層の適正処理に貢献(1,4-ジオキサン含有廃棄物でも処理可能)。また、新たに電子捕獲型検出器(ECD)を取り付け、PCB(ポリ塩化ビフェニル)等の測定も可能となった
混触試験	廃棄物の混合によって起こる反応性の有無についての測定	反応を抑えて処理する廃液混合を模索し処理可能になるよう研究
溶解試験	固形廃棄物の溶解処理の可否試験	固形廃棄物の処理拡大のための研究開発実施
汚泥の試験	水分量測定、熱灼減量測定、必要に応じ灰分の蛍光X線分析	有害燃焼ガスは第一工場脱臭設備で処理

「計量証明事業登録」
濃度に係る計量証明の事業 (平成23年8月11日)

※その他の環境配慮
・測定後のサンプル・試薬の約98%はセメント原燃料に再利用
・分析器具の洗浄水もセメント原燃料に再利用

5 廃棄物収集運搬事業部門の再資源化挑戦取組です

わたしたちの廃棄物収集運搬理念

わたし達が収集運搬する廃棄物は殆ど再資源化されます。従って、私たちは、大切な資源を収集運搬していると考え行動します。



最前列：下水道汚泥専用車輛

赤い車輛は、創業者の安全・適正な収集運搬の決意です。

創業時の決意と伝統を引き継ぎ、収集運搬する廃棄物を一人一人が大切な資源として取扱っていきます。



再資源化廃棄物の収集運搬目標と実績

汚泥等については、その特性により施設設備の整備状況や処理コストなどから容易に再資源化の進まないものがたくさんあります。こうした汚泥等の再資源化に向けて、太平洋セメント(株)藤原工場様や関連会社のウィズ・ネット(株)と連携・協働して継続して取組んでいます。



◆ 計画スタート時の基準値 (2006年度実績) → 2020年度実績

廃棄物総収集運搬量	52,749 トン	→	116,476 トン	(+63,727 トン 2.2 倍)
うち再資源化量	46,348 トン	→	111,559 トン	(+65,211 トン 2.4 倍)
うち再資源化収集運搬率	87.9%	→	95.8%	(※設定目標 95.0%)

		廃棄物総収集運搬量 (A)	左の廃棄物処理内訳		再資源化収集運搬率 B/A	
			再資源化 (B)	焼却処分等		
第1次計画 (2007～2011年度)	基準値 (2006年度実績)	52,749 t	46,348 t	6,401 t	87.9%	
	目標値 (5カ年平均値)	—	60,000 t	—	90.0% 以上	
	実績値 (5カ年平均値)	73,133 t	67,718 t	5,415 t	92.6%	
第2次計画 (2013～2015年度)	基準値 (2012年度実績)	80,823 t	76,268 t	4,555 t	94.4%	
	目標値 (実績値)	2013年度	— (87,377t)	— (82,465t)	— (4,912t)	95.0% (94.4%)
		2014年度	— (91,676t)	— (86,707t)	— (4,969t)	95.0% (94.6%)
		2015年度	— (92,426t)	— (88,062t)	— (4,364t)	95.5% (95.3%)
第3次以降の計画・実績	目標値 (実績値)	2016年度	— (97,863t)	— (94,218t)	— (3,645t)	95.0% (96.3%)
		2017年度	— (104,583t)	— (101,995t)	— (2,588t)	95.0% (97.5%)
		2018年度	— (109,586t)	— (106,723t)	— (2,863t)	95.0% (97.4%)
		2019年度	(111,809t)	(108,455t)	(3,354t)	95.0% (97.0%)
		2020年度	(116,476t)	(111,559t)	(4,917t)	95.0% (95.8%)

◆ 6種類 40 車輛を保有し、安全・環境に優しい収集運搬

粉粒体運搬車	フックロール車	バキューム車	タンクローリー車	ウイング車 平ボディ車	ダンプ車
粒子の小さい飛散性のある固形物の運搬 長距離、高所に粉粒体を排出可能	汚泥等バラ物の運搬 キャリアと荷台が分離できる アーム式脱着装置付コンテナシステム車	液体物の運搬 真空ポンプでタンク内を減圧して吸引、加圧して排出	液体物の運搬 3～4室に区画され、吸引・排出時は他動力使用可	容器類(ドラム・コンテナ・フレコンバック等)の運搬 ・8tパワーゲート車輛装備	汚泥等バラ物運搬 下水道汚泥専用車輛導入(完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備)

※ 2007 年度から、三重県下の流域下水道で発生する汚泥を、全量セメント原料として再資源化処理する事業に、太平洋セメントと当社を含む収集運搬事業者 2 社の 3 社が共同参加。当社においては、生活環境に及ぼす影響に最大限留意して、汚泥の運搬専用車輛(完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備) 8 台を導入して収集運搬しています。

再資源化廃棄物の収集運搬を支える日常活動



お客様と運輸部門現場を結ぶ要

運行管理者 村田哲也

◆ 安全衛生会議の開催

安心・安全・適正な収集運搬のための定例会議

- (議題例) ・トラックを運転する場合の心構え
・過労運転の防止
・インフルエンザ予防対策
・新型コロナウイルス感染症への対応・・・等



◆ 車輛・積載器材の点検・・・日常点検が信頼の第一歩・・・



◆ 安全運転管理



◆ 駐車場の環境管理



事業継続を危うくすることが想定される事態の危機管理取組

◆ 新型コロナウイルス感染症対策事業継続計画に基づき実施

2020年4月6日通知(以降随時改訂)

当社収集運搬事業の中断は、定常的に排出される産業廃棄物や、県民の日常生活に関わるライフライン等の維持に影響する懸念がある。感染者のみならず、濃厚接触者を出した場合においても同様である。信頼を裏切らない事業継続に必要な要員の確保を大前提として、通常の対策のみでなく、独自のきめ細かい対策を実施している。

◆ 発生事故の緊急水平展開と徹底改善の取組

事故原因及び影響の重大性を共有し、課題の検証と共有及び徹底改善に取り組んでいる。



6 北勢工場の環境保全と環境クレームの状況です

北勢工場の環境保全の状況

臭 気

臭気対策は、ISO14001 の環境目標に悪臭対策を定め取組んだほか、北勢工場試験分析室を中心として、継続しての改善に取り組んでいます。

臭気の除去は、スクラバー方式（湿式）6 連及び消臭剤散布設備の二重対策や排出ガス脱臭装置を設置しています。

◆ 北勢工場臭気規制基準と測定値

工場・事業場から発生する悪臭の防止については、悪臭防止法に基づく規制地域の指定や規制基準の設定が規定されています。

規制手法としては、

- ①特定悪臭物質規制（不快な臭いの原因となり、生活環境を損なう恐れのある 22 物質による濃度規制）と
- ②臭気指数規制（人間の嗅覚を用いて悪臭の程度を数値化）の 2 種類があり、いなべ市は②臭気指数規制です。

北勢工場に適用される規制基準及び指定期間内直近測定値は、次の通りです。

- | | | |
|-----------------------|---------|-------------|
| ①事業場の敷地境界線の地表における規制基準 | 臭気指数 15 | (測定値 10 未満) |
| ②第 1 エリア 脱臭装置出口 | 43 | (30) |
| ③第 2 エリア 活性炭出口 | 45 | (31) |

◆ 臭気測定機器による北勢工場臭気測定状況（自主測定）

区 分	第 1 エリア	第 2 エリア	阿下喜エリア
臭気指数 15 に相当するモニター測定値	391	391	391
臭いを感じ始めるモニター測定値レベル ※ 1	350	350	350
モニター測定値 (原則毎週 1 回)	A 地点 最大値～最小値	1～0	0～0
	B 地点 最大値～最小値	38～16	34～1

測定機器：コスモス電機製ポータブルニオイモニター XP-329ⅢR

※臭いを感じ始めるレベル 適用される臭気レベルの基準はないが、臭いを感じるレベルは概ね 350 位である。
このレベルでは環境クレームに至っていない。



北勢工場の臭気測定値は規制基準を十分クリアしていますが、お客様のニーズに応える再資源化処理の拡充をめざして整備した第 1 エリア脱臭設備（吸収塔）です。

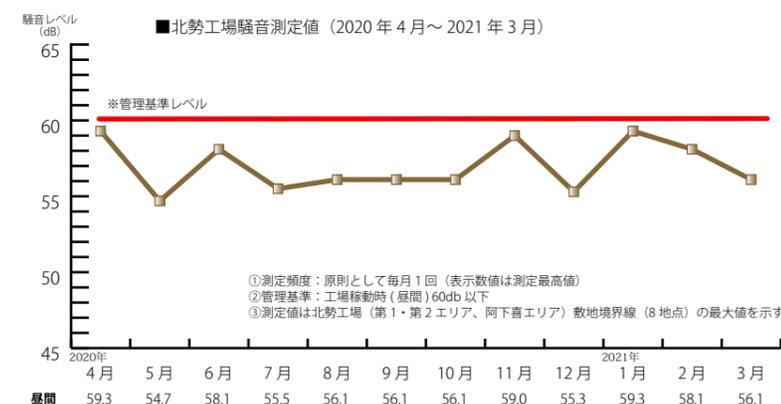
飛散・流出・浸透防止

◆ 工場排水口における水質管理基準（いなべ市環境保全協定）と測定値

測定項目	管理基準	2020 年度測定値 (毎月 1 回)	
		第 1・2 エリア	阿下喜エリア
水素イオン濃度 (pH)	5.8 以上 8.6 以下	6.5 ~ 8.1	7.1 ~ 8.5
生物化学的酸素要求量 (BOD)	25mg/ℓ (日間平均 20mg/ℓ) 以下	0.4 ~ 7.0 mg/ℓ	0.2 未満 ~ 3.2 mg/ℓ
浮遊物質量 (SS)	90mg/ℓ (日間平均 70mg/ℓ) 以下	1 未満 ~ 15.0 mg/ℓ	1 未満 ~ 34.0 mg/ℓ
大腸菌群数	3,000 個/cm ³ 以下	1 未満 ~ 610.0 個/cm ³	1 未満 ~ 600.0 個/cm ³
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	5mg/ℓ 以下	1 未満 mg/ℓ	1 未満 mg/ℓ

騒 音

構造物での遮蔽壁の設置、アイドリングストップ、夜間作業は原則行わない等の対策を行っています。



産業廃棄物中間処理工場のイメージを転換する環境管理を徹底します



防 火

工場には火を使う処理工程はありません。危険物タンクには、泡消火設備、消火ポンプ設備を設置して、不測の事態に備えています。

北勢工場への環境クレームの状況

環境クレームに対しては、様々な事例を想定して、発生させない事前の取組を基本として取組んでいます。平成 17 年度に悪臭に対する環境クレームが発生したことから、臭気対策に不断の努力を重ね、その後、環境クレームに至るまでの事案は発生することなく経過しました。しかしながら平成 24 年度・26 年度・27 年度・28 年度 (西暦 2016 年度) と社会経済活動の変化等に伴う新たな臭気クレームの発生がみられ、できる限りの改善措置を講じました。

2016 年度以後 5 年度間の臭気クレーム等は下記の 2 件です。

臭気問題は、単に法令基準の適合のみでない機微の事項もあることから、今後とも廃棄物再資源化へのご理解・ご協力の妨げとならないよう、一層の改善に万全を尽くします。

[直近 5 年間のクレーム事例]

種別	発生日	相手方	状 況	対応措置と結果
臭気	平成 28・9・15 (2016 年)	近隣企業	始業前で機器類の起動は無かったが、アミン系の臭気を確認。前日入荷の水系 TY (アミン臭) の処理量が多かったため、気温の上昇とともに臭気がタンク上部から出たものと推定。	・直ちにスクラバーを起動して臭気低減 ・今後は、処理量を調整し、臭気の低減を図ることを徹底指示
臭気	2020 年 5 月 19 日	近隣企業	従来、通常荷卸しで問題ない黒濁水であったが、今回の搬入品は通常より悪臭が強かった。	・直ちに、複数の場外への拡散軽減措置を実施 ・サンプル採取時の臭気確認、積み込み時の臭気確認等 5 項目の予防・是正措置を指示

7 安定・事業継続のための「環境経営」向上取組です

「環境 & 企業経営」、「ワーク & ライフ」を同軸で捉える企業活動を展開

「環境と企業経営は対立する軸でなく、同軸で捉える環境経営の推進」を掲げ、環境マネジメントシステムを活用して、全従業員の「環境経営理念」の共有を図っています。

今後、環境経営理念と同様に、『「ワーク」・「ライフ」を対立する軸でなく同軸で捉え、社員一人ひとりの充実したワーク・ライフ・バランスの好循環が、安定・継続する企業活動を創造する。』との二つの同軸理念のもと、少子高齢化に対応できる企業活動を展開します。環境管理委員会の機能を活用して、全員で推進します。

環境経営理念の全従業員共有取組

ISO14001 の取組においては、基本的な事項について「自覚を促す教育・訓練」として全部門で毎年実施し、「環境経営理念」の共有に努めている。

- *環境目的・目標達成取組活動に関する教育・訓練
- *環境マネジメント規定・マニュアル改訂等に伴う教育
- *グリーン購入ガイドライン教育
- *内部監査員教育
- *「安全・環境経営レポート」理解促進教育
- *新入社員（初任者）研修・・・等



ISO14001 「環境方針」と推進体制

認証取得経過	2004年 11月 1日	北勢工場取得	2013年 11月 1日	第3回更新
	2005年 11月 10日	全社拡大認証取得	2016年 11月 1日	第4回更新
	2007年 10月 12日	第1回更新	※2017年の継続更新は2015年版規格において認取得	
	2010年 10月 12日	第2回更新	2019年 11月 1日	第5回更新

環 境 方 針

1 基本理念

エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社は、「廃棄物は大切な資源」であることを共有し、安定・継続する廃棄物再資源化を推進し、更なる再資源化に挑戦する企業活動を展開します。我々が目指す廃棄物の再資源化事業においては、「環境と企業経営を同軸でとらえる環境経営の推進こそが、地域社会や顧客の信頼を得られ、企業活動が持続する。」との環境経営理念のもと、すべての業務が環境に与える影響を考慮し、SDGｓ（持続可能な開発目標）を意識しながら、更なる環境経営活動の継続的改善を目指して、全社員が一体となって環境と共に歩む企業を目指します。

2 基本方針

(1) 資源化を通じて環境保全に貢献

- 企業間の共同体制を確立し、廃棄物の再資源化に挑戦して社会活動で生じる環境負荷を低減する。

(2) 環境に配慮した事業活動

- すべての業務における環境影響の評価に当たっては、ライフサイクルおよびSDGｓの視点も考慮して適切に評価し、環境配慮製品の開発、廃棄物の発生抑制、環境の保護、汚染の予防に努め、地域社会により信頼される企業活動を展開する。

(3) 環境マネジメントシステムの運用

- 環境経営に適合する重要な環境目標を定め実行する。
- 環境監査等を通じて継続的な改善を図り、全社員の環境に対する意識の向上並びに活動の推進のため、教育を実施する。
- 環境情報の公開、第三者評価等、環境コミュニケーションに積極的に取り組む。

(4) 法令等の遵守

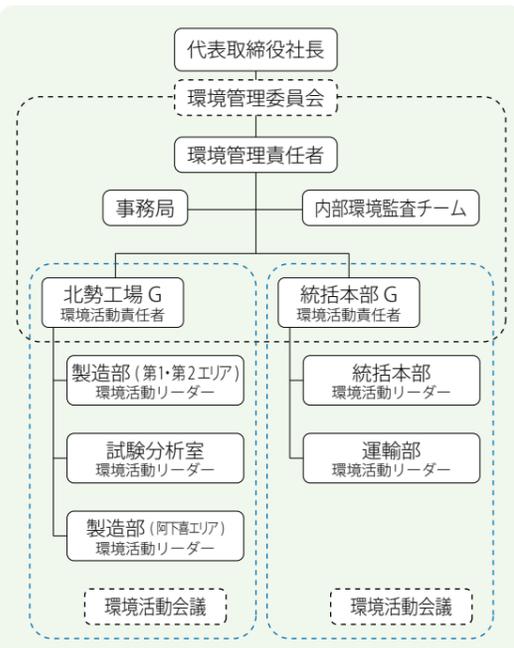
- 事業活動に適用される環境に関する法規制や当社が同意する業界標準を正確に把握し、遵守する。

環境方針は、求めに応じて利害関係者に開示し、事業活動に関わる全ての従業員や関連会社に周知する。

2020年4月1日
エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社
代表取締役社長 伊藤祐介

環境保全推進体制

経営者（最高責任者）を代表取締役社長とする体制で取り組んでいます。



- ・「環境管理委員会」は、各部門の責任者で構成され、定期的開催。推進方針の決定や進行管理を強力に推進。
- ・安全や環境経営について、知識や経験のある関連会社社員も参加

ISO14001 「環境目標」と活動報告



◆第1次（2004～2006年度）「環境目標」と取組結果

電気、用紙、燃料、中和剤等の使用量の削減と悪臭対策としての設備整備等 15 項目を環境目標に設定し、継続的な改善に取り組んだ結果、14 項目で計画達成、1 項目（工場事務部門省エネ）未達成

◆第2次（2007～2009年度）及び第3次（2010～2012年度）「環境目標」と取組結果

電気使用量の削減等については、社員の意識や行動が定着してきたことから、環境目標とせず、管理的な項目として継続的に取組むこととし、本来の業務の中での環境負荷低減の視点を重視し、また、環境方針及び環境保全組織も変更

◆第4次（2013～2015年度）「環境目標」と取組結果

第4次の環境目標は、第3次に引き続き、本来業務の中での環境負荷低減に注力し、チャレンジ的な目標を掲げ取り組んだ結果、ほぼ達成できました。

社員の意識や行動が定着してきた従来の環境取組みについては、環境目標としないものの、管理的な項目（掲載省略）として継続して取り組むこととしています。

目標項目（主たるもの）	最終年度(2015年度)到達環境目標	2015年度実績	評価
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	41,500トン	41,115トン	△
グリーン購入（品目指定）	指定品目の100%	100%	○
再資源化廃棄物の収集運搬率	95.5%	95.3%	△
タンク等清掃時に発生するスラッジの資源化	80%を資源化	96.5%	○
輸送1tあたり燃料使用量の削減	平成24年度比3%削減	3.4%削減	○

(注) ○目標達成 △相当の取組が認められるが未達成 ×取組未着手又は取組希薄で未達成

◆第5次（2016～2018年度）及び第6次（2019年度）「環境目標」と取組結果

第4次に引き続き、本来業務の中での環境負荷低減に注力し、「廃棄物の資源化量増大」と「再資源化廃棄物の収集運搬率」の向上を主要環境目標として取り組んだ結果、達成できました。

目標項目（主たるもの）	最終年度到達環境目標		実績		評価
	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度	
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	52,000トン	54,700トン	53,920トン	60,786トン	○
グリーン購入（品目指定）	指定品目の100%	同左	100%	100%	○
再資源化廃棄物の収集運搬率	95%以上	同左	96.9%	97.0%	○
タンク等清掃時に発生するスラッジの資源化	90%を資源化	92%を資源化	90.4%	95.0%	○

※「環境目標」と「中期経営計画」を同期間設定とするため、2019年度は、単年度の環境目標設定

◆第7次（2020～2022年度）「環境目標」と取組結果

第6次に引き続き、本来業務の中での環境負荷低減に注力し、「廃棄物の資源化量増大」と「再資源化廃棄物の収集運搬率」の向上を主要環境目標として取り組むこととしています。

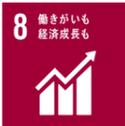
目標項目（主たるもの）	最終年度(2022年度)到達環境目標	2021年度目標	2020年度目標・実績		評価
			目標	実績	
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	82,200トン	73,600トン	59,000トン	64,070トン	○
グリーン購入（品目指定）	指定品目の100%	100%	100%	100%	○
再資源化廃棄物の収集運搬率	95%以上	95%以上	95%以上	95.8%	○
タンク等清掃時に発生するスラッジの資源化	95%を資源化	94%以上	93%以上	94.6%	○

8 環境マネジメントシステムと専門組織の両輪による「安全・環境保全」取組です

安定・事業継続する企業活動のための働き方（ワーク・ライフ・バランス等）を考える

新社屋への移転による私たちの働き方改革例

- ① バリアフリーの執務（来訪）環境。
駐車場から車椅子スロープを使い、エレベーターホールから3階建て各階へ移動可能。
- ② ドリンクサーバーを設置して、いわゆるお茶くみを廃止。各自の生理的要求に応じて各自飲料。
- ③ 個人用に近いゴミ箱配置を無くし、中央に設置した裁断機や印刷機等のスペースにのみ設置。
- ④ 営業部門のプレゼンルームは透明仕様。お客様からの問い合わせ等に他部門の者も迅速に対応。



衛生標語の募集（応募 47 件）

最優秀標語

SOS みんなで気付く（築く）職場環境

「改善提案」募集への社員提案（13 件）

安全・環境経営意識の向上が、積極的な提案に繋がっています！

社員ライフメッセージ

アマ交響楽団でコントラバス演奏！



総務部
堀井麻里絵

小さい頃からクラシック音楽が大好きです。現在もアマチュアの交響楽団に所属し、コントラバスを演奏しています。

楽器を弾いているときは、自分と向き合える大切な時間です。どうすればもっと上手く弾きこなせるようになるかを考えながら、技術を磨いています。

仕事以外の仲間との交流も楽しい時間です。

日常の中での新しい発見を大切に！



営業部
片岡智子

新型コロナウイルスの流行が始まり、行動範囲が狭くなって早1年以上・・・。

身近な自然の変化に気付くことが以前より多くなりました。通勤途中で見つけた満開の八重桜を撮影した1枚です。

鈴鹿山系の主峰御在所岳（標高 1212m） 社内のアウトドア派（らしき人を含む）で登山



第43回 東日本軟式野球大会（1部） 県大会優勝も 大会中止で無念の涙！



営業部
二井佳祐

軟式野球連盟に所属する桑名支部所属チームのキャプテンとして、刺激的な週末を過ごしています。

支部予選、県大会を優勝し、県代表として全国大会に出場することとなりましたが、コロナで中止となりました。残念ですが、部員を統率し、優勝できたことは大きな喜びです。

大人になっても、感動あり、緊張感ありの野球に恵まれ、充実感で溢れています。恵まれた機会への感謝を忘れません。

◆安全管理室情報発信 2020 年度（啓発活動）

No.	発行月日	安全衛生だより（掲載内容）
1	4月 2日	令和2年 春の全国交通安全運動4月6日～15日
2	4月 24日	STOP！転倒災害プロジェクト
3	5月 27日	全国安全週間準備月間・STOP 熱中症
4	6月 25日	全国安全週間
5	7月 28日	電気使用安全月間
6	8月 26日	防災週間
7	9月 9日	全国労働衛生週間準備月間
8	9月 16日	秋の全国交通安全運動
9	9月 23日	全国労働衛生週間
10	11月 9日	令和2年 秋季全国火災予防運動
11	11月 11日	私（家族）の健康・体力づくり
12	11月 19日	令和2年 年末の交通安全県民運動
13	11月 30日	令和2年度 年末年始無災害運動
14	1月 5日	1月の安全衛生だより「冬に流行する感染症」他
15	2月 8日	2月の安全衛生だより「ヒートショックに注意」他
16	3月 1日	3月の安全衛生だより「コロナ禍の花粉症対策」他

環境マネジメントシステム活用の教育・訓練等

「安全・環境保全」に関する教育・訓練等は全部門・全社員の参画を基本とする環境マネジメントシステムの中に組み込んで計画的に実施している。

◆事故や緊急事態の対処・環境保全訓練の実施

各部門や従業員が主体的に関わる各種の教育・訓練は、従業員の現状認識を高めている。

想定される事故等に対する明確な目標を定め、主体的に取り組む教育・訓練として計画的に実施する環境マネジメントシステムに組み込んで教育・訓練を実施している。



泡消火剤使用想定訓練



消火ポンプ起動操作



❖ 防火訓練

想定：タンクからの出火に対する泡消火剤使用想定訓練
訓練：消火ポンプ機動、泡消火剤使用想定訓練
消火栓からの消防ホースによる初期消火活動実施訓練

❖ 事故・災害時の緊急連絡教育

北勢工場内、太平洋セメント藤原工場内、その他顧客先・公道の三通りの連絡網と連絡要領についての教育

❖ 試験分析部門で想定される事故及び緊急事態の対処訓練

予想される事故及び緊急事態、汚染の予防手順及び役割、汚染の緩和手順及び役割、緊急連絡網の説明及び使用訓練、救急救命の方法と実施訓練、ガス検知器・保護具の使用法・・・等



ガス検知器での雰囲気測定

マスクを使っての入室の様子

◆専門分野教育・訓練の実施

地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる従業員の資質の向上に取り組んでいます。職場研修の充実、幅広い資格取得や受講の機会を提供しています。

- * 各種資格取得のための講習会参加・受験
- * 新規施設設備に関する教育・訓練
- * 関連法令、規定類、手順書等の教育
- * 特定試験分析作業と環境配慮事項等教育・訓練
- * 薬品取扱・管理、安全に関する教育
- * 他社廃油処理施設等の事故に学ぶ教育

◆収集運搬教育・訓練の実施

- * 産業廃棄物収集運搬の法令順守教育
- * 危険物タンクローリー車：廃液引取実施訓練
- * 基本作業の徹底・運行前点検の実施強化
- * 積荷作業中の墜落・転落等事故防止教育
- * 環境・人に優しい運転マナーアップ教育
- * ウイング車、パワーゲート車の取扱手順教育



実車教育

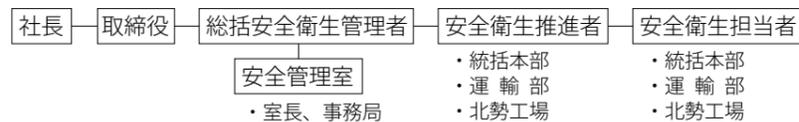
社員の資格取得状況（関係資格等の一部）

環境計量士 濃度関係	1名
公害防止管理者 水質関係第一種	2名
公害防止管理者 騒音関係	2名
危険物取扱者 甲種	4名
危険物取扱者 乙種第4類	51名
産業廃棄物中間処理施設技術管理者	2名
第一種衛生管理者	6名
運行管理者	13名
酸素欠乏等危険作業主任者技能講習	48名
有機溶剤取扱作業主任者技能講習	45名
特定化学物質等 作業主任者技能講習	19名
消防設備士 乙種第6類	5名
ISO14001 内部環境監査員	17名
普通救命救急講習	24名
職長・安全衛生責任者教育	32名
.....等	

会社専門組織での「安全・環境保全」取組

「環境マネジメントシステム活用の安全・環境保全取組」とともに、幅広い専門的視点から、安全・環境保全を推進する「安全管理室」を設置し、専門的知識や技術を有する者を配置して取組んでいます。

◆安全管理体制



安全・環境経営トップパトロール

◆経営トップと安全管理室による全職場の安全・環境パトロール

パトロールは、安全管理及び環境経営の視点に立って、保護具の着用状況、不安全箇所・不安全行動の有無、整理整頓状況等きめ細やかな点検及び前回の指摘事項に対する是正状況を確認し、確実に改善します。

項目	2020年度の状況	最近3カ年度の状況			備考
		2019	2018	2017	
経営トップパトロール	2回(7月・10月)	2回	2回	2回	毎月1回定期的実施
安全管理室パトロール	10回	10回	10回	10回	* 軽微事項も重大事
年間指摘事項件数	34件	33件	27件	15件	故に繋がるとの認識
未是正項目(現状)	なし	なし	なし	なし	で繰り返し指摘

◆リスクアセスメントの取組強化

平成23年度から「リスクアセスメント」の取組を導入。全社を挙げて、事業におけるリスクを発見・特定し、特定したリスクを分析・評価して、改善実施。

北勢工場を対象に、化学物質リスクアセスメントに取組み、実施手順書の制定及び手順書に基づく主な化学物質のリスク評価を実施。

◆新型コロナウイルス感染症対策

安全管理室において各方面から出される情報を精査し、全部門にメール配信・5月31日までに「55報」を提供しました。こうした情報を活用し各部門で対策を推進。

- ① 適時適切な情報の全社提供
2020年2月7日「安全衛生だより」で嚴重注意喚起
2020年3月3日 適時の継続的全社情報提供が必要として「第1報」表示で提供
2021年5月31日「第55報」を提供
- ② 「新型コロナウイルス感染症対策行動指針」策定(4月6日)以降随時改訂
- ③ 「新型コロナウイルス感染症対策事業継続計画」策定(4月6日)以降随時改訂

◆安全衛生大会の開催

新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止

安全標語の募集(応募53件)

最優秀標語 統括本部 運輸部 岩田浩之

危険です
注意するの思いやり
違う目線で危険予知



◆安全衛生委員会の開催

※開催中止(資料配布)

第一回 2019年度 安全衛生活動実績及び反省
(4月16日) 2020年度 部門安全衛生活動計画(案)の検討等

第二回 第一四半期活動の反省
(7月29日) 安全週間の総括 第二四半期の活動確認等

第三回 第二四半期活動の反省
(10月27日) 労働衛生週間の総括 第三四半期の活動確認等

第四回 第三四半期及び2021年1月の活動反省
(2月25日) 第四四半期の活動予定
2021年度 安全衛生活動計画(案)について等

◆安全衛生会議(北勢工場毎月開催:今年度は回覧周知、部門別伝達中心に実施)

- (議題例)
- 安全衛生活動計画の周知
 - 新型コロナウイルス感染症対策
 - 熱中症対策について
 - インフルエンザ、ノロウイルス予防について
 - 地球温暖化・CO2削減への取組み
 - 火災予防について
 - 危険予知活動の推進

9 社会貢献活動の取組状況です

地域社会の一員としての認識や活動は、企業活動において大切な事項の一つだと考えます。当社の人材や技術等を地域社会で活用することを中心に取組んでいます。

= 活動実績 =

◆災害義捐金を寄付

平成30年7月豪雨(西日本豪雨)災害義捐金を寄付させていただきました。

平成27年6月熊本地震災害、平成23年3月東日本大震災及び平成23年台風12号三重県災害に対する災害義捐金寄付に引き続き行ったものです。

被災者の皆様に心からのお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興を願っています。

◆三重大学教育研究助成金への寄付

2020年6月三重大学に対し、平成24年以降で8回目の「三重大学教育研究助成金」を寄付させていただきました。



◆経営トップの環境関係委員等への就任・協力

- * 三重県環境審議会公募委員への就任(平成20年12月1日~22年11月30日)
- * 三重県環境審議会専門委員への就任(平成22年12月1日~平成24年10月31日)

◆他企業、団体等の環境取組等への協力

*消防署消防訓練(危険物施設事故対応訓練)への協力参加

訓練日時等:平成27年6月24日 エス・エヌ・ケー・テクノ(株) 駐車場
訓練内容:道路上でクレーン車がタンクローリーに追突し、第二石油類の廃油が漏洩

訓練参加機関:四日市中消防署(本署・中央分署)、消防救急課、四日市市消防団三重分団、エス・エヌ・ケー・テクノ(株)



*みえ・グリーン購入倶楽部「伊勢志摩サミット応援事業」への協力

みえ・グリーン購入倶楽部(平成29年3月「みえグリーン活動ネットワーク」に改称)は、伊勢志摩サミット開催の機会を捉え、三重県旅館ホテル生活衛生同業組合青年部と「観光施設における環境経営」についての講演会を開催しました。当社もこの事業の開催を支援させていただきました。

*JICA(独立行政法人 国際協力機構)への事業協力

平成22年の事業協力に続き、平成24年11月7日JICAが実施した「コロンビア国ボゴタ首都特別区廃棄物総合管理基本プロジェクト」に協力してエマルジョン燃料の製造等の説明・北勢工場見学

*ICETT(公益財団法人 国際環境技術移転センター)への事業協力

平成20年10月24日、ICETTが実施した中華人民共和国河南省環境保護局研修員の公害防止技術研修協力

◆ビオトープの創出

平成27年2月に整備した阿下喜エリア敷地に約230㎡のビオトープを造りました。

廃棄物の資源化と小さな生態系を共生させ、ともに育てます。



ビオトープ

◆地域貢献活動

周辺地域美化活動

統括本部・小杉詰所・北勢工場周辺で春季及び秋季の年2回 毎年実施

安全・環境経営レポート裏面に「いなべ市の案内」掲載
工場見学者等に地域紹介



美化活動

10 環境コミュニケーションを大切に考えます

環境に関する情報を開示し、積極的に環境コミュニケーションを図ることにより、地域社会や顧客の信頼を得るとともに、自らの環境活動を継続的に改善する企業でありたいと考え行動し、このための取組を一步一步着実に築きあげます。このため、一層の環境コミュニケーションの充実を図り、皆様からのご意見やご指導をいただく機会を増やす努力を重ねます。

ISO14001 認証取得

- 2004年11月1日 北勢工場取得
- 2005年11月10日 全社拡大認証取得（2019年11月1日第5回更新審査・確認）

環境報告書（安全・環境経営レポート）第17版の作成、公表

2021年7月、第17版「安全・環境経営レポート」（2020年度活動報告）を作成し、公表。
2005年9月初版発行（2004年度活動報告）から連続17事業年度目の報告。

当社事業の性格上「安全」と「環境経営」を一体として捉える事が適切であることから、「安全・環境経営レポート」として作成。今後とも様々なご意見やご提案をいただきながら改善し、毎年発行します。

※第四版以降毎年7月発行、第五版から第三者コメント（第15版から三重大学大学院工学研究科 分子素材工学専攻 学長補佐・教授 金子 聡 様）掲載



ホームページ開設 URL：http://www.snk-techno.co.jp

＝掲載内容＝

- 会社概要：**代表あいさつ・会社案内・沿革・関連企業・アクセス
- 事業概要：**事業概要・産業廃棄物処理・廃棄物収集運搬・品質管理・各種許可証
- 環境・安全取組：**環境取組・ISO14001 認証・安全取組・社会貢献取組
- その他：**安全・環境経営レポート・採用情報・産業廃棄物についてのお問い合わせ

工場見学（視察）の積極的受入

直近5年度間で724企業等から1206名の皆様にご視察いただきました。

アンケート等により様々なご意見をいただき、継続的改善に取り組んでいます。今後とも、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	5年度計
見学企業	65社	220社	145社	139社	155社	724社
見学人数	129人	362人	247人	246人	222人	1,206人

経営トップによる環境取組発表

- ※令和2年2月18日 一般社団法人三重県産業廃棄物協会主催の「産業廃棄物処理業における安全衛生研修会」で安全衛生活動について講演
- ※平成25年2月14日 一般社団法人三重県産業廃棄物協会主催の「産業廃棄物処理法説明会・環境対策事例発表会」で環境省講師とともに、「環境経営について」の演題で講演。
- ※平成24年5月31日 第10回日本環境経営大賞パネルディスカッションパネリストとして参加
- ※平成22年3月5日 三重県、四日市市、三重県産業支援センター主催「低炭素社会シンポジウム分科会・低炭素社会に向けての企業が目指すべき環境経営」パネリストとして参加



環境大臣表彰を受賞

平成20年10月24日、「平成20年循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」（3R活動優良企業）を受賞しました。

日本環境経営大賞「環境経営パール大賞」（環境経営部門の最優秀賞）を受賞

平成24年5月31日開催された第10回日本環境経営大賞表彰式において、日本環境経営大賞：環境経営部門の最優秀賞「環境経営パール大賞」を受賞しました。

日本環境経営大賞は、全国の企業や団体等の優れた環境経営の取組を表彰することとして、2002年度に三重県が創設し、「日本環境経営大賞表彰委員会（委員長 山本良一 東京大学名誉教授）」が表彰するものです。

第10回で終了となりましたが、以下の通り、全国企業等の環境取組が10年間にわたり展開され、その実績が評価されました。

- *応募総数 1,279件（うち県内134件・県外1,145件）
- *受賞総数 148件（うち県内19件・県外129件）



環境経営パール大賞受賞者 14団体（うち県内4・県外10）

- 第1回 ㈱滋賀銀行本店
- 第2回 アサヒビール㈱神奈川工場
- 第3回 シャープ㈱亀山工場
- 第4回 ㈱INAX
- 第5回 ㈱リコー
- 第6回 伊那食品工業㈱
- 第7回 トヨタ自動車㈱堤工場
速水林業
- 第8回 ㈱滋賀銀行本店
国立大学法人三重大学
- 第9回 日本興亜損害保険㈱
千葉大学環境ISO事務局
- 第10回 前田建設工業㈱
エス・エヌ・ケー・テクノ㈱

私たちこそが、心通わせ信頼を醸成する
最良の環境コミュニケーションツールでありたいと行動します。



**環境活動
団体への
加入**

17 パートナシップで
目標を達成しよう

- ◆ みえグリーン活動ネットワーク会員
- ◆ グリーン購入ネットワーク会員
- ◆ 公益社団法人三重県緑化推進協会賛助会員

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



私たちの企業活動をSDGsにあてはめ開示しました。
17の目標のうち7目標（4・7・8・12・13・15・17）を延15個それぞれの活動にあてはめました。SDGsを理解する段階ですが、今後とも貢献できる領域に目標を定めチャレンジしていきます。

11 第三者コメント



三重大学大学院工学研究科
分子素材工学専攻
特命副学長・教授

金子 聡

まず冒頭に、エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社におかれましては、2020年3月1日で会社設立20周年を迎えられ、同年7月に新社屋に移転されたとのことで、誠にありがとうございます。新社屋屋上で社員の皆様が写真に納まっているページがあり、ワンチームでお仕事に取り組み、企業活動を展開されている様子が伺え、数年前から環境レポートを拝見している一人として、大変嬉しく思います。

一昨年、昨年に引き続きまして、エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社の安全・環境経営レポート第17版を拝読させていただきました。まず、特筆すべきことは、近年の売上高の増加であると思います。4年間の売上高を見てみますと、2017年度では1,452百万円、2018年度では1,527百万円、2019年度では1,893百万円、2020年度では2,001百万円となり、昨年コロナ禍で先行きが不透明な社会情勢におきまして、20億円以上の売り上げを達成されたのは、環境と企業経営が対立する軸ではなく、同軸で取らえている「環境経営方針」が着実に前進している証左であると思います。また、流動比率も2001年の148.1%と比較すると、2020年度では282.7%で約2倍となり、責任ある企業として確実に成長していると考えられます。

北勢工場への搬入廃棄物の再資源化システムにおいて、2020年度では廃棄物66,194トンが受け入れられ、セメント焼成用補助燃料等に65,821トンが再資源化・供給されています。これらのデータから、再資源化率は99.4%になり、近年、廃棄物の受け入れ量を増やしているにもかかわらず、再資源化率が低下していないことは、大変素晴らしい、日々研究や工夫を重ねられている社員の皆様には、最大の賛辞を贈りたいと思います。

また、コロナ禍においても、クラスターを発生させることなく、廃棄物運搬事業を着実に実施されており、2020年度では、再資源化廃棄物運搬量116,476トン（再資源化量111,559トン）、再資源化収集運搬率95.8%となり、再資源化量が過去最大に増加しています。このことから、再資源化廃棄物の収集運搬を支える日常業務が緊張感を持って実行され、安心・安全・適正に収集運搬するための創意工夫がなされているものと推測できます。

2030年に向けて、さらなる廃棄物の再資源化に挑戦し、社会経済活動で生じる環境負荷を低減していくためには、分析部門の重要性がますます増加すると思います。幸いにして、北勢工場試験分析室には、一般的な研究所に設置されている最新装置（パージ&トラップガスクロマトグラフ質量分析/ECD測定装置、蛍光X線分析装置、自動燃焼イオンクロマトグラフ分析装置、発熱量測定装置、引火点測定装置）が整備されているため、これらの解析装置を利用して、再資源化処理が難しい廃棄物の処理範囲拡大が求められると思います。本環境レポートから、単なる分析部門という位置づけではなく、研究所としての側面を併せ持つことが良く理解できるため、処理困難物の資源化処理に向けた研究、開発が進展することを期待しています。

環境クレームをオープンにしている企業の姿は、非常に好感を持てます。2020年は、残念ながら1件の臭気クレームがありましたが、臭気対策に対してさらなる検討や工夫ができる良い機会であると、前向きに捉えるべきだと思います。環境問題において、臭気対策が非常に難しいことはその専門分野の人間ならだれでも認識しておりますが、より何か対策する方法はないか、日々模索することも重要であると思います。

新社屋の移転において、バリアフリーの実現、ドリンクサーバーの設置、ごみ箱再配置など、社員の皆様が一丸となって働く環境を工夫し、仕事とプライベートを両立させるワーク・ライフ・バランスを考え、サステナビリティを実践している姿は、非常に未来を感じさせます。地域を巻き込んで、安心・安全・確実な企業発展を継続していただきたいし、さらなる発展が地域からも期待されていると思います。

統括本部

☎510-0814
三重県四日市市清水町4番45号
Tel 059-332-3711
Fax 059-332-2132

URL: <http://www.snk-techno.co.jp>
E-mail: eigyoubu@snk-techno.co.jp



北勢工場

☎511-0417
三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地
Tel 0594-72-7850
Fax 0594-72-7851

